

開園以来 76 年を経過し、本園は地域園芸農家及び勤労者家庭の児童の福祉増進に寄与してきたところですが、近年、核家族化の進展、急速な少子化の進行、家庭・地域を取り巻く環境の変化に対応し、子どもや保護者に必要な支援が求められています。一人ひとりの子どもが健やかに成長するよう、保護者に対する支援と地域の子育て家庭に対する支援を職員の専門性を活かしながら取り組んできました。

◎令和 5 年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 一人ひとりを大切にした保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障

- ① 子どもの心を受け止め相互的なやり取りを重ねながら、見通しをもった育ちの援助を行った。
- ② 家庭と連携を密にし、子どもが安心して過ごせる場となるよう援助や関わりを行った。
- ③ 年間計画を立て一人一人の成長に合った見通しがもてる保育に努め、子どもが健やかに成長し、豊かな活動に取り組めるよう援助を行った。

(2) 早出・居残り、乳児保育、特別支援保育、家庭支援等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供

- ① 保護者の就労時間に応じた長時間保育を行った。
- ② 乳幼児保育には積極的に取り組み、途中入所も受け入れ園児の増加に努めた。
- ③ 特別支援保育では研修に参加し、専門知識を身につけ保護者とともに子どもの育ちや支援に努めた。
- ④ 家庭支援では、衣服や寝具の洗濯をしたり、常に声をかける、手紙を書く等、保護者が相談しやすい環境を作る努力を行った。又、登園が難しかったり、迎えに来なかったりの家庭には、頻繁に電話をかけたたり家庭訪問をしたりして安否確認を行った。時には専門機関と密に連絡をとり支援に繋げていった。

(3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、園庭開放等保育所地域活動事業の実施

- ① 園庭開放は、年間 5 名の来園者があり入園にも結びついた。
- ② 異年齢児交流では、卒園児童を「里帰り」と称して招待し、ゲームを楽しんだり、保育士が劇を披露したりして交流をはかった。日常の保育の中では豊かな生活体験をはじめ、保育内容の充実を図る為、異年齢児と関われる様、環境設定を行った。
- ③ 毎年、老人施設の訪問をする事で、人をいたわり、思いやりの気持ちを育むことを目的として世代間交流事業を行っている。施設利用者、又、自身の祖父母に日頃の感謝の気持ちを込めて、手作りのプレゼントを渡した。
- ④ 新型コロナウイルスの扱いが 5 類になった事を機に、園恒例の施設慰問を再開した。6 月にシルバーマリン、7 月には海の里と両老人保健施設慰問を行った。和太鼓演奏、よさこい踊り、合唱、手遊び等を披露し、利用者の方々に喜んでもらった。

(4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援

- ① 職員会や園内研修などで、園児の特性等の情報を職員間で共有し、個々の対応に連携して取り組んだ。
- ② 家庭環境に対する支援については、職員間の連携を図り又、子ども家庭支援センター・児童相談所とも協働・連携した取り組みを行った。

(5) 保育士の資質向上と保育水準の向上

- ① 保育実践や研修などを通じて保育の専門性を高め、職員同士の共通認識をもった取り組みをした。キャリアアップ研修にも参加し質の向上に努めた。

(6) 保護者の就労支援の為、延長保育の実施

- ① 保育が必要な家庭を対象に、平日午後7時00分までの延長保育に努めた。また、就労だけでなく家庭状況に応じて対応した。

(7) 園児の体力づくりのための体操指導、英語講師による異文化への関わりの実施

- ① 体を動かす楽しさ、大切さを知り柔軟な体づくりに取り組んだ。
- ② オーストラリア出身の講師と一緒に英語を交えたゲームや遊びの実施に取り組んだ。

(8) 避難訓練や防災活動の実施、及び関係機関との連携

- ① 自園の訓練計画に基づき、火災や地震津波避難訓練を定期的実施しているが、今年度も、地域の中学校との合同避難訓練を行った。また、高知東警察署・三里交番の方とも合同訓練を行った。それぞれの機関より評価をいただき、その結果を次の訓練に活かすようにしていった。
- ② 防災備蓄物品については、避難場所である三里中学校に協力をいただき、毎年、点検や補充を行っている。令和5年度で、水、食料品の2日分(園児及び職員人数分)とオムツ、マスク、簡易トイレなどが備蓄できている。
- ③ 12月には地震・津波避難訓練の後、防災DVDを見て地震避難の学習を行った。
- ④ 不審者対策として、各学期毎に様々な想定をふまえた不審者訓練を実施した。
6月には、子どもの安全に関する知識・技術の向上を図る為、又、不審者侵入時に職員及び園児への対応方法を保護者に知ってもらう為に、参観日終了後、保護者に不審者役をしてもらい実技訓練を行った。保護者の方には、園の安全管理について考えてもらうよい機会となった。

(9) 健康の取り組み

- ① 4、5歳児を対象として、週5回、フッ化物洗口液でうがいをを行った。
- ② 園児が「痙攣を起こしたらどうするか」をシミュレーションし園内研修で振り返りを行うことにより対応について理解を深めた。園の看護師指導のもと、乳幼児の心肺蘇生人形とAEDトレーナーを使用し、園内研修で実技研修を行った。
- ③ 3～5歳児を対象に歯ブラシ指導を行った。
- ④ 感染予防対策として、各クラスの園児を対象に、園の看護師による健康教育として「手洗いチェッカー」をつかった手洗い指導を行った。

- ⑤ 熱中症対策として、毎日熱中症指数を掲示し職員への注意を促した。

(10) 食育の取り組み

- ① 毎月19日の「食育の日」を職員に意識させ、食に関する絵本を読み聞かせる等園児に食に興味を持たせる様にした。
- ② 幼児組を対象に、クッキング保育や年3回の食育集会、年長児に向けて「だし」の味比べをして和食の大切さを知らせた。
- ③ 保護者に向けて食育だより・給食だよりの配布、行事食についての提示、子どもの好む給食やおやつレシピの配布等を行い、関心を持たせた。

(11) ICT業務効率化事業導入

- ① 登降園時にはタブレットと視認と二重にチェックをする事で子どもの人数把握を確実にする事が出来た。
- ② 園のホームページを活用し、写真販売や保育計画の立案等、情報配信を行った。

◆組織の状況

令和6年3月31日現在

定員	令和5年7月より定員60名
職員数	14名（正職8名、臨職2名、パート4名）
保育時間	平日（7:30～19:00） 土曜（7:30～17:30）
早出、居残り児童	早出児童40名 居残り児童48名

※嘱託医内訳（歯科医1名・内科医1名）

◆在籍児童数

令和6年3月31日現在

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
児童数	6	6	10	13	9	15	59

◆年度別：月平均在籍児童数

年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
3歳児以上	46名	39名	40名	36名	35名
3歳児未満	40名	38名	31名	25名	20名
計	86名	77名	71名	61名	55名

◆令和5年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	51	51	51	51	52	55	57	57	57	59	59	59
入所	0	0	1	0	1	3	2	0	0	2	0	0
退所	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・・・・・・・・2名
- 給食関係研修・・・・・・・・ 2名
- 保育士研修・・・・・・・・・25名(高知県/高知市/全国保育士会)
- 保育業務に関する研修・15名(特別支援保育研修会・発達支援、リズム&ダンス
研修・人権研修他)
- 防災研修・・・・・・・・・・1名
- 保健関係研修・・・・・・・・・12名

◆令和5年度主要な年間行事

- 4月 入園式・対面の日、内科健診、火災避難訓練、幼児・乳児組懇談会
- 5月 家族の日、地震津波避難訓練、こいのぼり運動会ごっこ、里帰り、歯磨き指導、人形劇観覧
- 6月 歯科検診、火災避難訓練(雨の日想定)、尿検査(4・5歳児)、不審者訓練、参観日、シルバーマリン慰問(年長児)、交通安全教室
- 7月 プール開き、七夕笹飾り、みさとまつり、海の里慰問(年長児)、地震津波避難訓練
- 8月 火災避難訓練
- 9月 地震津波避難訓練(東警察署・三里交番合同)、敬老慰問、実習生受け入れ
- 10月 運動会、内科健診、火災避難訓練(消防立ち合い・通報訓練)、園外保育、お芋掘り
- 11月 地震津波避難訓練、記念写真、年長児お買い物、保育の日、勤労感謝慰問、歯科検診、就学前健康診断、実習生受け入れ、三里小学校オモチャ祭りに参加
- 12月 もちつき、生活発表会、クリスマス会、地震津波避難訓練、不審者訓練
防災教育(DVD視聴)
- 6年/1月 幼児・乳児組懇談会、中学校合同避難訓練(東警察署・三里交番立ち合い)
お正月遊び・クッキング保育・お弁当の日、焼き芋クッキング(年長)
- 2月 豆まき、火災避難訓練、小学校一日入学、お店屋さんごっこ(お弁当の日)、
サッカー教室、フッ素洗口指導(高知市保健師指導)
- 3月 卒園式、新入児保護者会、不審者訓練(保護者の協力)、火災避難訓練
種崎作品展展示参加、お別れ遠足、お別れパーティー
- その他 ◆ お誕生会、火災避難訓練、体操・英語教室は毎月行っている。
◆ 食育集会、健康集会を学期に1回行っている。